

# NPO法人 介護サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



## ● 2012 年度総会第 2 回理事会開催報告

2012 年 10 月 11 日（木）13 時 30 分からフォレスト仙台 3 階介護ネット事務所において、第 2 回理事会が理事 9 人と監事 2 人の出席で開催されました。

議決事項として、1. 情報の公表事業推進委員会委員委嘱の件、2. NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ 2013 年度総会日程決定の件が提案され、議決されました。

報告事項として、1. 2012 年度総会議事録の件、2. 2012 年度上半期収支報告の件、3. 加入状況報告の件、4. 「情報の公表」調査事業の件、5. 地域密着型サービス外部評価事業の件、6. 介護保険制度政策立案チームの件、7. 福祉サービス第三者評価事業の件、8. 実務担当者会議開催の件、9. 2012 年度苦情解決の第三者委員情報研修交流会報告の件、10. その他、NPO 法改正に伴う対応の件について、入間田理事、野崎理事、事務局からそれぞれ報告があり、確認されました。

## ● 介護ネット会員団体「こ～ぷのお家緑ヶ丘訪問看護ステーション」が開所しました



選任の看護師の方々

NPO 法人介護ネットみやぎ会員団体社会福祉法人こ～ぷ福祉会こ～ぷのお家緑ヶ丘に、9 月 1 日（土）、新しく訪問看護ステーションが開所されました。こ～ぷ福祉会では桜ヶ丘に次いで二つ目の訪問看護ステーションになります。専任の看護師が 3 人登録され、24 時間対応体制をとっています。

これに先立ち 8 月 31 日（金）に、初代こ～ぷ福祉会理事長外尾健一さんをはじめ、こ～ぷ福祉会関係者、介護ネットみやぎからは齋藤境子理事長、鈴木由美事務局長、近隣の町内会長など

多数が参加して、こ～ぷのお家緑ヶ丘訪問看護ステーションの開所セレモニーが行われました。

こ～ぷ福祉会は、生協の原点である「一人は万人のために、万人は一人のために」のスローガンを実践する場所として生まれました。「利用者の立場にたったサービスの提供」にこだわった在宅介護を支援する複合的な機能を備えた施設を拠点に、高齢者とその家族をトータルにサポートすることを理念としています。



◆事務局からのお知らせ◆ 年末年始のお休みは 2012 年 12 月 26 日（水）から 2013 年 1 月 3 日（木）です

### 介護ネットみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけでなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護（尊重）、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

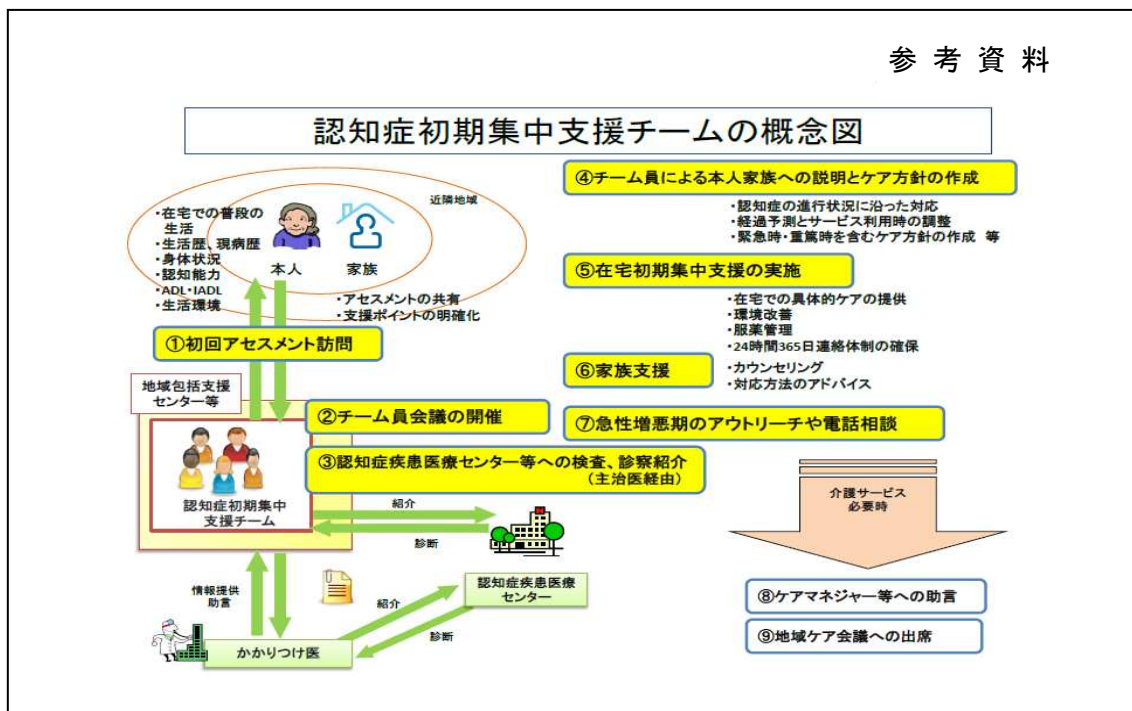
**介護ネットみやぎ参加団体** 宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいこーぷみやぎ・松島医療生活協同組合・全国労働者共済生活協同組合連合会宮城県本部・みやぎ県南医療生活協同組合・JA 宮城中央会・財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こ～ぷ福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人 WAC まごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・協同組合日専連仙台・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城民医連事業協同組合・社会福祉法人みんなの輪・労協センター事業団東北事業本部

● 2012 年度第 3 回実務担当者会議拡大学習会開催報告

2012 年 9 月 21 日（金）14 時から 15 時 30 分まで、実務担当者を含め 18 団体から 38 人と事務局 7 人が参加し、講師に社会福祉法人みんなの輪ケアグループ木もれび統括責任者の山崎彰子さんをお迎えして、拡大学習会を開催しました。

「今後求められる医療介護連携～訪問介護、ケアマネジャーの視点から、自事業所での医療連携を考える～」と題して、今回山崎さんが参加した、日本生活協同組合連合会の第 2 回福祉トップマネジャー研修の伝達講習でした。事例として、日本リック株式会社福祉介護事業部ケアマネジャー松山真さんがモデル事業（東京都新宿区）実施の中でかかわった医療連携について、中核病院（東京厚生年金病院）と医師会の全面バックアップのもとに取り組まれた内容でした。

今回の事例のように、介護にかかわる関係者全員が情報の共有をリアルタイムでできるタブレットを持つことで、今後の在宅介護がスムーズに運ぶようになる可能性が大きいと話されました。



● 2012 年度第 3 回実務担当者会議開催報告

2012 年 9 月 21 日（金）15 時 45 分から 17 時まで、フォレスト仙台 5 階 501 会議室において、オブザーバー 1 人を含む 21 人で開催しました。

8 月に実施した、「介護報酬改定後のサービス状況についてのアンケート」集約結果報告を事務局（寺岡）から行いました。

アンケートからはケアマネジャーの重要性、介護職員の労働の大変さ（サービス時間が細切れになったこと、報酬の低さなど）、介護報酬改定のスケジュールはこれでいいのか、処遇改善加算について分かりにくい、国は事業者利用者への説明責任を果たすようにとしているが国・自治体の説明責任を果たしてほしいなどが見えてきたことから、これらの項目も盛り込む形でまとめを確認しました。

その後、アンケートから見えてきたことをもとに意見を出していただきました。出席者からは、ケアマネジャーの専門性が重視されていないことや事業所の介護職員のやりくりが大変になったこと、今回の改定が利用者のニーズに合っていないなどの意見が出されました。

また、入間田副理事長からはアンケートにご協力いただいた御礼と、今後のアンケートのまとめをもとに宮城県・仙台市と懇談していく予定であることが報告されました。

## ● 政策立案チーム開催報告

2012年度第2回介護ネットみやぎ介護保険制度政策立案チームを、10月31日（水）10時から12時、介護ネットみやぎ事務所にて、齋藤昭子座長、嵐田光宏さん、鈴木久代さん、芳賀紀子さん、入間田範子さんと事務局の鈴木由美事務局長、寺岡事務局担当の7人の出席で開催しました。

開会に先立ち、齋藤昭子座長より挨拶を行い開会されました。議題は、この間の取組み報告、介護報酬改定後の状況を中心とした情報交流、介護報酬改定後の状況、次期改定に向けた課題の検討等の意見交換を行いました。

【報告事項】：鈴木事務局長から以下の報告を行いました。

- (1) 宮城県「老人福祉施設介護サービス事業所・施設等の人員、施設及び運営に関する基準に係る条例制定に対する意見書」提出の件
- (2) 「東日本大震災被災者の介護保険利用者負担の減免の継続を求める活動」へのご協力の御礼とご報告
- (3) ケアマネジャーのあり方検討会に関するパブコメ募集のお知らせの件
- (4) 介護保険利用者負担の減免を求める介護関係団体打ち合わせの件

### 【情報交流】

○報酬改定後の収支状況について、訪問介護事業は大きな変化は無い。通所介護事業は増収傾向になった。体制等の変更を実施しなかったことが要因と思われる。

○この報酬改定から、国は介護保険制度をどう確立しようとしているのか。事業者の視点で運用しようとしているのではないか。

○地域包括ケアシステムが、本当に自立支援につながるのか疑問。

【検討事項】：入間田副理事長が（1）、寺岡事務局が（4）の説明を行いました。

- (1) 「報酬改定後のサービス状況についてのアンケート」のまとめの件

以下の点を確認しました。

①協力された事業所へ報告すること。

②国への報告と宮城県・仙台市及び主要自治体（市・町）との懇談会にも報告する。

③最終的な「まとめ」は、来年2月を目途に行う。その「まとめのポイント」として、「事業者と利用者にとって今回の改訂が及ぼした影響とそこから見えた問題点」と「利用者にとって負担増になっている問題点」が見える「まとめ」とする。

- (2) 宮城県・仙台市への懇談について

- (3) 「介護保険利用者負担の減免を求める介護関係団体」主催の「震災からの復旧・復興を考える（仮題）」講演会の開催について

- (4) 地域包括システムの確立にかかわる問題点について（継続検討事項）

○地域包括ケアシステムが、本当に自立支援につながるのか疑問。

○どこの事業所でも夜間の訪問看護の利用度が低いのが現状。

◎実際に運営している事業者の情報収集や学習等、今後の継続課題として取り組みを進める。

### 介護ネットみやぎ新会員のご紹介

企業組合 労協センター事業団東北事業本部 様

センター事業団は1982年日本労働者協同組合連合会(当時:中高年雇用・福祉事業団全国協議会)の直轄事業として出発し、1987年に、現組織であるセンター事業団に組織再編しました。日本における労働者協同組合づくりという新しい協同組合運動に挑戦し、東北6県に36ヶ所の高齢者・地域福祉・障がい者支援・若者支援・子育て・食関連などの施設を持ち、宮城県内では、20ヶ所の施設を運営しています。

### ● 2012 年度第 1 回情報の公表調査事業推進委員会

2012 年 11 月 7 日（水）13 時 30 分から 15 時 00 分までフォレスト仙台 3 階介護ネットみやぎ事務所において 8 人の出席で開催されました。2012 年度の情報の公表調査に関しての、会計関係の報告、調査にともなう各種会議の報告が行なわれました。その後「介護サービス情報公表システム」で「介護事業所検索」を行ないました。

### ● 2012 年度第 3 回情報の公表向上検討委員会開催

10 月 16 日（火）10 時 30 分から 12 時 00 分まで介護ネットみやぎ事務所において 6 人の出席で開催し、『平成 24 年度「介護サービス情報の公表」制度報告・調査事務・情報公表事務に関する計画』と今後の調査員研修について確認しました。

### ● 2012 年度介護ネットみやぎ第 2 回地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修報告

2012 年 10 月 19 日（金）10 時 30 分から 12 時までフォレスト仙台 501 会議室において評価委員、評価調査員、情報の公表調査員、賛助会員 27 人の出席で拡大学習会を開催しました。株式会社リブレグループホームよもぎ塾所長兼管理者の蓬田裕樹（精神保健福祉士）さんに「グループホームの重度化や終末期の対応について」と題して、医療や家族との連携、看取りに係る職員研修、実際に行っている支援などについてお話をいただきました。利用者の尊い命が燃え尽きる最期の時まで、職員の寄り添った支援をうかがい胸が熱くなりました。午後 1 時から、みやぎ生協協同保険センターの新田さんから「調査機関賠償補償制度」「コープの介護保険」について説明していただきました。次に、2012 年度地域密着型サービス外部評価新調査員 16 人に委託通知書（委託期間：2012 年 9 月 12 日～2013 年 6 月 30 日）を渡しました。最後に、「2012 年度外部評価実施状況と確認事項」「外部評価の手順と流れ及び調査開始時マニュアル」「平成 24 年度改正介護報酬及び加算・減算」などについて確認しました。

#### 講演内容から

グループホームよもぎ塾（2 ユニット）は、平成 20 年 7 月 1 日に開所した。職員は全員常勤で看護師は嘱託である。建物は H 型になっており、両ユニットの間にウッドデッキを設置し行き来ができるようになっている。職員が見守りしやすいような造りのため死角がなく利用者にとっては閉塞感があるかもしれない。「自分の部屋に一人でいたら寂しいけど、みんながいるリビングにも居たくない。」と利用者が思った時にホッとできるように、公園をイメージして各ユニットの中央にベンチを設置している。

よもぎ塾の理念は「ゆったり・いっしょに・たのしく・ゆたかに」である。「利用者にどうしたらゆったりした生活を過ごしてもらえるか？どうしたら一緒においしく食べてもらえるか？どうしたら楽しく豊かに生きていると思ってもらえるか？」と職員一人ひとりが考えながらケアしている。また、年 2 回「理念実現度評価表」をもとに自己評価を行いケアを振り返っている。これは高い自己評価を求めるのではなく、利用者の生きる過程をどのように支えどう関わっていけばいいか考える指標としている。

利用者は誕生会やクリスマスよりもお正月やお盆を大事にして育ってきた世代である。お盆にお線香を焚きお経を読んで心を静め、神棚や木像に自然に手を合わせることで心の安寧になっている。ホームでは「胃ろうや経管栄養および継続的な医療行為等延命治療は行わない」方針としている。看取りをする場合でも、家族や職員の子どもに来てもらいにぎやかな雰囲気をつくり、リビングにお連れしみんなに生きている過程を見守っていただく。また、おせち料理の栗きんとんを滑らかにしてから食べていただくなどごく当たり前の生活を心がけている。最後に利用者や職員全員で焼香してお見送りする。仙台往診クリニックと 24 時間 365 日の往診体制を図り、川島医師から適宜講習を受講している。さらに、「看取り」に係る研修として入社時や月 1 回の勉強会、外部セミナーへの参加、職員会議などで身体状況や具体的支援方法について学んでいる。家族との信頼関係を築き家族の辛さなどに寄り添い、自宅にも訪問して焼香したり手紙などで交流している。

職員から看取り経験の前と後にアンケートをとった結果、最初は「何をどうすればいいかわからない」と言っていた職員も経験すると「やりとげた充実感と利用者の死から学んだことへの感謝、今回できなかったことを次の方へ繋げていこう」という思いに変化している。